



Title	1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書No.4(124 外務省外交史料館レファレンス番号 : H222094)
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(3)No.5 公開日 : 平成22年12月22日 外務省外交史料館管理番号 : 2010-6440 CD・DVD番号 : H22-013
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43880
Rights	外務省外交史料館所蔵資料



124

秘
秘

総理の打会 43.12.7 米友

12月7日午後10時より2時頃 総理との
打会を行った。出席者 総理 大塚

得利玄房長友 本村新長友 次友 米
等田局長 北米澤長

1. 総理より 日米の安全のたの件尾の基
地が何故必要かか 一番重要な点か

通量の結果 基地が弱くなつては困るで
はないか との趣意の発言あり

2. 「日米の安全を 根本の安全」は 「日米 及び
日米の安全を 根本の安全」と表現する等 「沖

港の基地は 朝米の安全のためには日米の領
土を使はせる」と云ふことなどなく 「日米の安全

のためには必要」と云ふ言の徹底が必要なりと

の指摘あり

3. 泡いこ 「愛知大正演説会の件」別添の
「沖港の基地の地位は如何なるか」を朗読

第一項に付 総理より 「その通り」と強い
コメントあり 第二項以下については特定

用語についてはコメントはなかつたが全
作として反響なく 泡いこ 資料1を

朗読 「俺が演説から、いさここと」資料を
読かられた。

4. 対米交渉にについては 大塚より 米大使と
懇談に着手すること、泡いこ 米大使2月

一時帰米を充分強要すること、泡いこは
ソコソコ院員又は友人を派遣する(岸が

よいと思ふ) 可成り推察付すること

韓外務大臣訪米 在米に拘りなく日
米関係全般を是れや子と。その

米外務省に於いては、米作約は判断と
活合つて、米作を固め子とに替りて

先づ
返米時期の月差を計、米作約の形は面
次やつて行けばよからう。其の要あり

米作の要に於いては、米作基地の地程に於
て米の合算なしは、米作の先ん決める

こととありと見らるる旨、米作より
持論。換算より先ん決める。

5. 米作換算より米作のPRの
必要（一人だけ言つておとから言つてま

たかたか言はれから）。米作換算より、米作
自派と云つたのけにして、米作基地問題にして之

米作の反米保勢力が利用し得る状態
は實にあり。この要あり。